

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	人文社会特論E		
英文授業科目名	Researches in Humanities and Social Sciences E		
開講年度	2005年度	開講年次	3、4年次
開講学期	5、7学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	古屋 祐子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
日本の近代美術の歴史を理解する。また明治・大正期の美術界を代表する作品を通して、“新しい表現”の獲得を目指して挑戦を続けた作家たちの活動の様子を追う。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
美術（夜間主コース総合文化科目）

<b>【教科書等】</b>
教科書は使用しない。参考書等のプリントを毎時間配布する。 参考文献は初回の講義の折に提示する。

<b>【授業内容とその進め方】</b>
作品の履歴、当事の美術界の動向や社会状況を傍証として、作品にみられる表現を分析する。毎回スライドを用いる。本年は絵画の他に建築、彫刻、デザイン等も視野に入れて進めていく予定である。

## 電気通信大学 平成17年度シラバス

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(評価方法) 出席状況(20%)、とレポート提出(複数回80%)とを併せて評価する。

(評価基準) 出席状況: 講義回数の半数以上出席のこと。

レポート: 課題に従った内容となっていること。自分の考えが根拠をもって論じられること。

### 【オフィスアワー: 授業相談】

講義終了時~午後1時まで

### 【学生へのメッセージ】

圧倒的な西洋文化と出会い、日本は江戸の幕藩体制から明治の近代国家へと変貌する。そのような明治及び大正期において、美術界でも”洋画”の摂取や”日本画”の誕生等、伝統を超えた革新的で近代的な表現が追求されていく。作家たちが求めた”新しい表現”とは一体どういうものだったのか、その点に注目していく。

### 【その他】